

IVHHN(日本語仮称：国際火山災害医療ネットワーク)の紹介

Introduction of International Volcanic Health Hazard Network

石峯 康浩[1]

Yasuhiro ISHIMINE[1]

[1] 防災科研・固体地球

[1] Solid Earth Group, NIED

火山噴火で放出される火山ガスや微小な火山灰粒子などは、人体に悪影響を及ぼす恐れがある。例えば、三宅島では2000年の噴火以降、二酸化硫黄ガスの放出が続き、住民は4年間以上も帰島することができなかった。このことは、火山噴火の社会的影響を考える場合、噴火噴出物による健康被害の評価が重要になることを示している。

International Volcanic Health Hazard Network (IVHHN) = (日本語仮称) 国際火山災害医療ネットワークは、火山噴出物の健康に対する影響評価を目的として、2003年2月に結成された。IVHHNは現在、25の国際機関に所属する31人の専門家会員のほか、120人以上の会員によって組織されている。これらの会員は、火山学、疫学、毒理学、公衆衛生学および物理化学など様々な分野で研究を行っている。IVHHNは2003年に国際火山学地球内部科学協会 (IAVCEI) に委員会として承認された。

IVHHNの主な目的は(1)火山活動による健康被害調査という比較的新しい研究分野の発展を促進する、(2)学際的かつ国際的な研究組織間のこれまでの協力関係を維持しつつ、新しい協力の輪を広げる、(3)火山活動による健康被害の情報と行動指針を整理し、火山観測所、科学者、政府、危機管理担当者、医療従業者および一般大衆に広く知らせる、(4)健康被害を評価するために火山学的ならびに医学的なデータの収集を促進する、(5)世界中の火山から集められた火山灰および火山ガスの試料や文献のデータベースを作成して、本ネットワークやその他の機関で利用できるようにする、というものである。

IVHHNは現在、火山噴出物による健康被害に関する数種類のガイドラインを準備中である。防災科学技術研究所では、それらのガイドラインの情報をインターネットを利用して日本国内向けに提供するため、日本語に翻訳することを計画している。この作業は、防災科学技術研究所で推進中のプロジェクト研究「火山噴火予知に関する研究」の一環として行われる。このプロジェクトは、次世代型ハザードマップの開発に向け、コンピュータ技術を効率的に利用した災害軽減情報の提供方法に関する検討を行うことを目的の一つとしている。

発表では、2005年2月に発表された火山ガスの許容量に関するガイドラインの内容を含めてIVHHNの紹介を行う。